

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390300509		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	第2グループホーム愛生		
所在地	熊本県人吉市南泉田町115		
自己評価作成日	令和3年2月18日	評価結果市町村受理日	令和3年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和3年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方の誕生会 外出・外食計画 イベント(夏祭り、敬老会、クリスマス会等) 学習療法(KUMON) 訪問看護・医療との連携 訪問歯科、訪問販売、訪問美容室 訪問マッサージ(保険適用) 《ハード面》太陽光発電、天然温泉、防災耐火建築
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年人吉、球磨地方を襲った大水害では、建物3階にあるホームに直接的な被害は無かったものの、1階法人施設に水が押し寄せ等、甚大な被害を受けている。人吉の家徴であり入居者にとっても見慣れた風景であった球磨川の反乱により、地域の景色が一変し、入居者や家族、職員の生活に大きな影響を与えている。その中に元気を取り戻したホームでは、徐々に普通の生活に戻りながら、変わらぬ職員により支援が継続されている。管理者はケアの充実とともに、職場環境や職員のメンタルケアに配慮しており、働きやすい環境を整備し、定期的個人面談や日頃から相談事に応じながら、風通しの良いホーム作りを進めている。入居者へ最終支援までは行わないもののギリギリまでホームで支え、本人・家族の意向に現状を検討し、現時点で必要とされる内容をプランに反映させるなどケース会議や法人の専門性が活かされている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフにとって業務にあたり大切な単語をスタッフそれぞれ考えてもらい、合わせた理念を作成。朝礼後、全員で唱和している。	5年前に全職員が介護をする上で大切にしたい言葉を出し合い、一つひとつを検討しながら作り上げた理念であり、朝礼時に唱和して一日のスタートを切っている。入居者への傾聴の姿勢と、ゆとりをもって支援にあたることをケア指針としており、移動の少ない職場環境が、入居者と職員の馴染みの関係性を作っている。	理念を通しケアを振り返る機会や、内容変更の有無に関わらず、見直すことも必要と思われる。また、運営推進会議などを活用し、理念の啓発に努める事が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前年度は、コロナウイルスの拡大もあり地域との交流も出来なかったが以前までは、近隣の幼稚園の行事に参加させて頂いたり、地域の行事に参加していた。	隣接する幼稚園児との相互交流や、地域行事、敷地内に点在する法人施設との交流などコロナ禍以前に行われていた地域との付き合いが、本年度は中止となっている。	コロナ収束後の地域交流の再開に向け、普段から関係機関や施設と連絡を取り合い、入居者が再び地域とつながる機会を継続されることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の方、ご家族に参加して頂き、グループホームで生活されている利用者の方の状況を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には他事業所、ケアマネジャーも参加しており意見を頂いた際には、毎月行っているケース会議でもスタッフに伝え話し合っている。	会議は法人の小規模多機能事業所との合同開催となっており、今年1月は書面審議として参加者へ資料等を送付しているが、以前は通常開催が出来ている。行政や交流ある幼稚園関係者、小規模の職員などが参加し、事故やヒヤリハットの報告、身体拘束についてもホームの姿勢や取組を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所とはメール、FAX、運営推進会議にて研修等の案内や連絡等いただいている。	運営推進会議には市の担当者が参加しており、行政の立場から情報の発信や、ホームへの助言などが行われている。コロナ感染症の拡大に伴い、感染症対策のメールでのやり取りや指導を受けているが、外部研修などは全て中止となっている。管理者は担当者に相談事に応じてもらいながら、友好的関係を継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束委員会を行い、スピーチロックやセンサーの廃止や他にも、歩行器の置く位置も本人様が届く位置に置く等、他職種も含め話し合いを行っている。	身体拘束委員会は法人が運営する他のグループホームと合同で設置しており、現在はズーム開催としている。互いの情報や他の事業所での事例をもとに話し合い、センサーマットを使わないケアにも取り組んでいる。言葉使いについて気になる点が多々あるとしており、今後の課題と捉えている。	管理者はスピーチロックについて、入居者への尊厳を大事にしたいとしており、今後も日常的な話し合いや会議開催の必要性が求められる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前年度のコロナウイルス拡大により、外部研修等の参加は出来なかったが、身体拘束委員会で虐待に関する情報や、精神的な虐待がない様、スタッフに伝え周知徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を行っている。外部研修の案内があった際には、職員へも促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を頂いて、十分に納得された上で契約して頂ける様にしている。法改正にて、同意が必要な内容の場合は説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、状況報告やご家族より意見を頂いていたがコロナウイルスの拡大により、運営推進会議にはご家族のみ参加して頂いていない。 電話で要望があった際には対応している。	現在、直接面会は中止しており、リモート面会にて入居者の表情などを発信している。管理者は電話でも家族の気づきや意見を尋ねており、出された意見についてミーティングで検討し、入居者に最良の手段で応じるようにしている。入居者の中には自ら要望を伝える方もおられるが、表現困難な方へは普段の関わりから引き出すようにしている。	移動手段である車いすや歩行器については、入居者が安全かつ衛生的に使用できるよう、定期的な点検や衛生管理が必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行っており、イベント、利用者の方の対応、業務について話し合っている。 職員会議でZoomを取り入れた事で、参加しやすくなった。 また、年に2回個人面談を行っている。	毎月の会議で職員は業務改善につながる意見や、入居者の心身の変化などについて気づきを出し合い、ケア向上に反映させている。時には言語聴覚士(ST)から、飲み込みの悪い方や唾液をため込む方などへの対応方法の指導を受ける等、法人の機能が活かされている。管理者による職員の個人面談や有休、希望休の取得など、働きやすい職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	毎月希望休を聞き、希望通り休める様にしている。 腰痛等あった際には、スタッフと話し合い夜勤の調整等行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の掲示板にて情報の公開やLINEWORKSアプリを通じて、スタッフ全員誰もがいつでも見れる様になっている。掲示板、アプリの活用にて研修参加への周知、研修の参加ができています。 他にも毎月スタッフが講師役となり、研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、情報交換行っている。 同法人内の事業所とZoomを使用し、情報交換も行うようになった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期は出来るだけ、本人様やご家族から昔の話を聞き、どういった方なのか、何を好まれているのか知るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランにてサービス内容を伝え、ご家族の考えも聞く様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人外である、訪問歯科や訪問マッサージと契約しており、その方にとって必要であれば利用して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事は、自分でして頂いている。 洗濯物たたみ出来る方は、職員と一緒にたたんで頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの拡大により、面会を制限させて頂いている。面会を希望された際にはお手持ちのスマートフォンの活用しオンライン面会。オンライン面会使用方法が分からない方は、来設して頂きオンライン面会室へご案内し、オンライン面会をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所が自宅である場合は、散歩中に話を聞きながら自宅までご案内して頂き自宅前で写真を撮っている。また、散歩で行ける範囲ではない方は、ドライブ中に自宅まで行く事を目標としている。	家族とは現在リモートでの面会となっており、月のホームだよりで入居者の表情を伝える事で安心してもらうよう努力している。入居者にとって馴染みの川である球磨川の大水害を乗り越え、日常を取り戻しつつあるホームでは、入居者と職員の日々の生活も安定しており、馴染みの関係性が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新規の利用者の方が入所された際には、自己紹介し交流の場の提供。また、気の合いそうな方と席を近くに作る等行っている。他に、年間行事や誕生会を行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了されても、ご家族との関係は続いておりメールでのやりとり、記録の開示等行っている。 一部のご家族は「ここに来るとまだ、利用している気がする」と訪れられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人に昔聞いておられた曲や趣味、好きな食べ物等聞きその人らしく昔の生活に近づける様に支援している。	職員は普段から入居者の思いを引き出しながら、支援に反映させており、毎月のケース会議で情報を出し合い、検討している。意思決定の難しい方には普段の表情や関わりから、本人本位となるよう家族の意向と併せ検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用される前に、ご家族にこれまでの生活歴を聞いている。また、グループホームを利用される前に他のサービスを受けておられた場合には、その事業所からも情報を聞き支援に当たっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、ケース記録、申し送りノート、職員会議等で情報共有し、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のケース会議と職員会議を開いており、各職員がご家族との会話から得た情報を提供している。 ケース会議ではその月に計画した内容を、翌月に結果を話し合い記録に残している。	本人・家族の思いを優先し、ケース会議で入居者の現状を共有して必要な内容をプランに繋いでいる。コロナ禍であり法人の施設などを利用し、家族や管理者、ケアマネジャーや訪問看護師が同席して、認定更新における担当者会議を開催し、ケアの方向性を決定している。入居者の現状を共有し、筋力低下によりトイレでの排泄が難しくなっても、意欲が見られる時には、ポータブルトイレを利用したり、反応がある下の名前呼びかけ会話をするなど、個別支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を業務日誌に記録し、特記事項は個別記録にも記入し、職員がすぐに分かる様情報を共有。その個人記録を元にケース会議で話し合い、ケース会議議事録としても記録を残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望がある場合には、他科受診を行っている。他にも、同法人のPT、STへの相談を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のスーパーより、2か月に1回訪問販売して頂き好きな物を買って頂いたり、近くの食堂へ外食等行っていたが、現在コロナウイルス感染防止の為中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の方の了承を得て、法人内の医療機関をかかりつけ医として、訪問診療を受けている。必要時には、他の医療機関の受診も行っている。	本人・家族の了承を得て、現在は法人医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回や月1回など個々に応じた受診支援が行われている。また、法人の訪問看護と連携を図り、入居者の健康を支えている。専門医など他の医療機関については、基本的に家族の対応としているが、困難な場合はホームでも応じている。歯科については訪問など定期や必要に応じて支援している。歯磨きは食後支援しやすいように、洗面台にセットされており、大きな鏡を前に、自ら磨かれる方や必要に応じた口腔ケア支援が見られた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護ステーションと連携し、24時間連絡体制が整っており急変時には相談している。状況次第では、実際に訪問し診て頂き受診へと繋がるケースもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーと情報交換を行っている。 同法人の病院で入院された際には、毎月行っている管理者の会議や入退院調整会議で情報交換を行っている。 現在は一部の利用者の方ではあるが、くまもとメディカルネットワークに登録しており、今後全員登録を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	延命意思確認書を作成している。病状が悪化する可能性がある場合は、緊急時や延命について延命意思確認書を元に御家族やドクター、訪問看護と話し合いを行っている。	延命意思確認書により、本人・家族の意思に沿った支援に努めている。状態低下が生じた場合は、医師の判断により、医療機関への転院が検討されている。看取り支援に関して、職員も周知に繋がるよう研修の機会が持たれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を全職員が受けている。グループホームの連絡会にも普通救命講習を取り入れられており、参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に法人全体の訓練と事業所での訓練も行っている。 「はようみなせ球磨川」をパソコンのデスクトップに設定しており、いつでも水位の確認が出来る様にしている。また、備蓄の確保やLINEWORKSアプリを職員全員がインストールしており、すぐに情報共有出来る様にしている。	法人全体やホーム内の訓練を実施しており、今年度は11月に法人で消火訓練が行われている。また、マニュアルについては、定期的に見直されている。昨夏の豪雨では、法人も被害を受けているが、入居者に被害はなく幸いであり、球磨川の水位はパソコンで確認をしている。日頃の安全点検は夜勤者により、消火器、厨房、廊下、階段などをチェックしている。	法人内(長寿センター)で備蓄管理を行っているがホームでもリストを備えておくことが必要と思われる。今年度は11月に1回のみでの訓練であり、年度内の訓練の実施が期待される。火災は火を出さない事が一番であり、細かな安全チェック項目に沿った点検に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方には必ず敬語を使うよう徹底しており、職員の人生の先輩である事を意識して業務に当たっている。 職員同士の申し送りや、排泄の確認等で利用者の方が気にされる為、イニシャルの使用とグループホームで考えた排泄のサインで情報交換を行っている。	呼称は苗字や反応などから家族の了承により下の名でも対応している。入浴や排泄支援など要望があれば同性介助にも応じている。身だしなみやおしゃれについては、訪問理美容の利用や好みの衣類などは、家族の協力も得ながら取り組んでいる。	入居者の居室へ入る際は在室の有無に関わらず、今後もノックや了承の徹底を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来る方には、入浴前に衣類の選択を行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、利用者の方が眠そうにされている時、寝たい時には休んで頂いている。徘徊されている方も、静止せずに好きな様に移動して頂き、必要な場合のみ声かけを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛が伸びたら、訪問美容師を依頼している。 他にも光る物を好まれている方には、光っている靴を購入する等、その方に合った物を考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主に献立に沿った食事ではあるが、イベントの際には献立の食事を止め、イベントに合った食事を提供している。 食事の準備も一緒に頂いていて、現在はコロナウイルス感染防止から中止にしている。	食事は業者による調理済みの料理を湯せんで提供している。誕生会等のイベントやラーメンなど入居者の好みを聞き取り、普段と違った食事支援の機会も持っている。職員は食の進まない方にも、「今日は進みませんね～！もう少し食べてみますか～！」など、無理せずゆっくり介助にあたっている。現在は感染症への対策として、入居者によるつぎ分けなど食事の準備は控えている。	今後も入居者の楽しい食事となるよう、イベント食など定期的な実践に期待したい。エプロンの使用については、引き続き、首への負担やメニューによってはタオルでの対応などを検討しながら支援されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは外部の食品会社の献立で管理してもらっている。食事量、水分量は毎日チェックをしており記録に残し、食事、水分量が少ない方はドクターへ報告し、栄養補助食品を処方して頂いている。水分摂取が困難な方には、いつもと違う飲み物や、お茶ゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが困難な方には、訪問歯科に相談し、その方に合った器具や方法を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分で出来る方には、ずぼん、パンツの上げ下げの声かけを行っている。排泄チェック表の活用で、排泄パターンを考えトイレへの誘導を行っている。	排泄パターンを職員間で共有し、残存機能を活かせるような声掛け・誘導、支援に努めている。現在、リハビリパンツを使用される方が中心であるが、布パンツ(パット併用もあり)やテープ式おむつなど、個々応じた排泄用品で支援している。日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間のみ5名の方がポータブルトイレを使用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排便日のチェック、水分チェックを行い便秘にならない様に心掛けている。排便が困難な方には、乳製品でも対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴と曜日は決めているが、時間は本人の体調に合わせて好きな時間に入浴して頂いている。また、予定日とは違う日に要望があった方は入浴して頂いている。	基本的に週3回、9時半からの入浴対応としているが、その日の状況によっては午後からも支援している。ヒノキを使用した家庭浴や機械浴が備わり、個々の身体状況に応じて使用されている。拒否がある場合も無理強いせず、本人が入られる気分になられた時に誘導している。シャンプーなどはホームで準備しているが、皮膚状態に合わせて個別で使い慣れた品などを用意される方もおられる。	浴室の窓棚は採光の場所でもあり、シャンプーや洗剤などは安全面からも他の場所で管理することで、入居者も寛げられると思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	オムツ交換により入眠の妨げにならない様に夜間のみ、長時間のパットを使用して頂いている方もおられる。フロアには、畳、ソファー、長椅子を設置しており、ゆっくり過ごして頂ける様場所を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬ファイルを作成しており、いつでも職員全員が見れる様にしている。また、薬の準備も固定した職員ではなく、その日の担当で準備し把握する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として、台拭き、洗濯ものたたみ、カーテンの開け閉め、加湿器の水入れ等して頂き、その都度職員からの感謝の言葉を忘れない様になっている。 嗜好品は、定期購入や要望があった際には担当職員が購入してきている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎月、御家族の方との外食、毎年正月には外泊される方がおられ事前に準備を行っていた。ドライブの際にも行きたい場所等聞き、ドライブしていたが、現在はコロナウィルス感染防止の為中止している。	これまではドライブや家族の協力により外泊、外食などを楽しまれていた方もおられたが、今年度は感染症への対策として外出は控えている現状である。これから気候の良い時期に入るが、散歩なども気軽に出来ないことに管理者も早い終息を語っている。	人吉雑誌「どうぎゃん」など、地域情報誌は外出支援に活かせるものと思われる。今後は外出気分を味わえるようなビデオ視聴や雑誌の設置なども良いと思われ、取組に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として、御家族より預かり職員で管理している。可能な方に限り、買い物の際には預り金よりお金を渡し、自分でお金を出して支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族に電話したいとの訴えられた場合は、こちらから電話をかけ受話器を渡し、お話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにホーム内に飾り物をして模様替えを行っている。毎月、季節に合ったカレンダーを作成しており、契約時に写真の掲示の許可を得た方のみ、季節のカレンダーに写真を貼っている。	ホーム内には入居者と一緒に作成した月ごとの作品を掲示している。家族の面会を控えている現状であり、来訪者が目にできないことは残念である。ホームは3階にあり、明るいリビングホールでは食事やレクリエーションなど入居者が日中の殆どを過ごされており、席の配置は相性なども考慮して決定している。職員の語り掛けは優しく丁寧であり、入居者の表情も穏やかに過ごされており、職員自身が良い環境となっていることが窺える。	異食の心配がなければ洗面台やテーブルなど季節の草花を飾ることも良いと思われる。また、経年と共に物品も増えることから、掲示物の傷みなども含めて定期的な見直しが必要と思われる。取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話等から気の合う利用者の方と近い席にしている。また、席を固定する事で混乱やトラブルを避けれる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	動物が好きで、動物のぬいぐるみを持って来られた方には居室に飾ったり、居室で過ごされる事が多い方には御家族の写真を飾っている。	居室への持ち込み品については、本人にとって安心できる空間となるよう、馴染みの物や自室にあった物などを家族へ伝えているが、必要な品のみが多いようである。お気に入りのぬいぐるみ、家族や思い出の写真などは心の拠り所となっている。衣替えは可能な限り家族にも協力を依頼しているが、現在は感染症への対策として、職員が中心に実施し、必要な品などがあれば報告を行っている。	パンフレットの居室紹介の欄に、家族の参考になるような持ち込みの品について明記することも良いと思われる。居室には押入れなどの収納スペースがないことから、大量の排泄用品が床に置かれた状態の部屋も見られた。プライバシーへの配慮からも、クロスを掛ける等職員の一工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに矢印と「といれ」と大きく平仮名で記載したものを貼っている。 カレンダーを月のカレンダーと、日めくりカレンダーを飾っており、日が分かりやすい様にしている。		